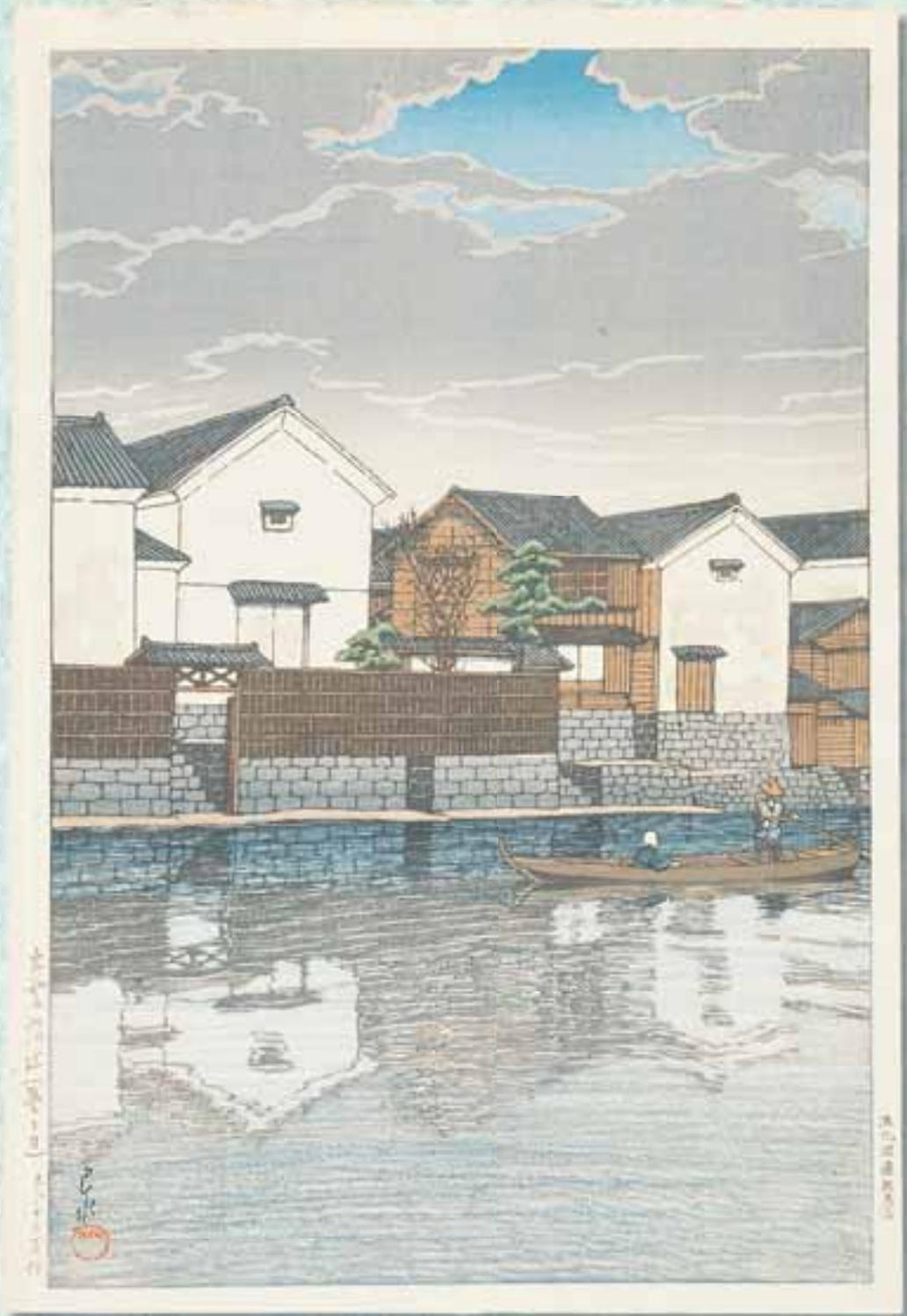


# 第17回 しまね景観賞

守り  
創り  
育てよう

ふるさと島根の景観



島根県

## ●表紙のご紹介



川瀬巴水 旅みやげ第三集より  
「出雲松江 曇り日」  
大正13(1924)年 多色木版・紙  
(島根県立美術館収蔵)

川瀬巴水は風景版画を制作するための取材旅行で島根を訪れ、水郷の街松江を象徴する景観を作品にした。現在の日本赤十字病院に臨む京橋川南岸は、昭和六年に焼失するまで、水面に映る土蔵の連なりが趣深かった。本作は天候や時間帯のみを異ならせて、その変化を捉えた三部作の一つである。作品名からもわかるように、巴水の表現の主眼は、ただ景勝地を描くのではなく、山陰の変わりやすい天気と雲によって多様な表情を見せる街並みの美しさにあった。

川瀬巴水(かわせ はすい) 明治16(1883)年～昭和32(1957)年  
東京芝に生まれる。洋画と日本画を学び、1910年、鍋木清方に入門。「巴水」の号を与えられる。1918年、伊東深水の木版画《近江八景》を見て版画への関心を寄せ、同年、塩原に題材をとった3点の版画作品を発表して以来、1957年に没するまで、風景版画に情熱を燃やし続けた。浮世絵版画の伝統手法を生かしつつも、新しい版画の可能性を見いだし、詩情豊かな風景版画の名作を数多く生み出した。

## はじめに

島根には、緑織りなす山々や変化に富んだ海岸線、日本海に浮かぶ島々などの美しい自然、人々の暮らしの中から創り出された農山漁村の風景、先人の知恵が受け継がれた歴史的なたたずまいなど、それぞれに個性豊かで特色のある地域の景観があり、今も大切に守り育てられています。

こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り育むことを目的に平成3年に制定された「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づいて、県では様々な施策を進めて参りました。

その一つである「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物及び活動等を表彰することにより、快適に文化の薫り高い島根の景観を形成していくことを目的としています。平成5年の創設以来、今回を含め185件が受賞され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

第17回となる今回は、大賞の「お茶の里『唐川』」をはじめ、10件の建造物や活動などを表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、審査委員の皆様や、本賞の趣旨に賛同し、御応募いただいた方々に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、島根の魅力ある景観の保全・創造に向けて取り組んで参りますので、一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成22年1月



島根県知事

溝口 善兵衛

## 選考総評



しまね景観賞審査委員会  
委員長

藤岡大拙

第17回を迎えた「しまね景観賞」を募集するにあたり、良好な景観づくりのための行為・活動がより重視され始めていることを考慮して、「工作物その他・活動部門」の名称を「活動・工作物・その他部門」に改めた。

こうして行った今回の応募総数は、173件であった。昨年170件、一昨年207件と3年連続で多くの応募があり、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、まず書類審査で24物件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い慎重に審議し、次の10件の建造物や活動等を選定した。

大賞は『お茶の里「唐川」』である。整然と刈りこまれた茶畑の畝（うね）々が、四季折々、周囲の山の緑に映えて美しい光景を演出しており、「島根の原風景」とも言える景観を明治以来唐川の人々が作りあげてきた点が評価された。

優秀賞は3件である。『松江市島根町加賀の公共施設群』と『佐々木家住宅』が「公共建築物部門」から選ばれた。前者は、公共施設群全体の統一美と、ひとつひとつの建物の個性が、互いに引き立っている点が評価された。後者は、景観、歴史、観光資源である建物を単に保存するのではなく、地元の人々が活用している点が評価された。「活動・工作物・その他部門」から選ばれた『松江水燈路』は、昼間見せている普段の松江の顔とはまた違う、夜において風情溢れる豊かな景観を創り出されている点が評価された。

奨励賞は5件である。「まち・みどり部門」からは、都市部からの住民との交流を深めつつ美観を守る取り組みがなされている『羽須美の棚田（上田・平佐）』と、いくたの人々の働きによって今日の美観が守られている『玉湯川の桜並木』が選ばれた。「土木施設部門」からは、シンプルな形状が川と一体となり、周辺の風景によく馴染んでいる『小原橋』が選ばれた。「公共建築物部門」からは、ユニークで十分に魅力的な景観となっている『観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI』が選ばれた。「活動・工作物・その他部門」からは、さりげない取り組みによって道行く人々におもてなしの心を伝え、心温まる景観を創りだした『神迎の道の会の景観づくり活動』が選ばれた。

特別賞に選ばれたのは、『新しい鍍絵の息吹』である。これは後継者不足により廃れつつある伝統技術を、若者が受け継ぎ、後世に伝えようとする心意気が評価された。

今後も、この「しまね景観賞」が魅力あふれる島根の景観づくりに寄与するとともに、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。

平成22年1月

# 大賞

## お茶の里「唐川」 から かわ

～整然と刈り込まれた茶畑の畝々が四季折々の美しい光景を演出する～

出雲市唐川町



唐川の里は周囲を山に囲まれたすり鉢状の地形をした静かな農村である。といっても、農地は極めて少なく、江戸時代の天保十四年（一八四三）の記録によると、村高わずか二十四石余（田一町二反余、畑二町九反余）にすぎなかった。この地は霧がよく発生して茶の木栽培に適していたので、村人たちは副業の一つとして、明治十二年（一八七九）ごろから茶の栽培を始めたといわれる。現在は標高百から二百メートルの山腹の緩傾斜地に、一面茶の木が栽培され、唐川茶・唐川番茶として広く知られるようになった。毎年春、里の中央部にある唐川館を中心に唐川新茶まつりが行われている。整然と刈りこんだ茶畑の畝（うね）々は、四季折々、周囲の山の緑に映えて美しい光景を演出する。

私が今年訪れたときは、里の氏神・唐竈（からかま）神社の秋祭りの翌日だった。唐川館には獅子頭が飾られていた。晩秋の静かな山里に展開する茶畑群、ひっそりと佇む家々、その前庭の柿の木の赤い実、それらが微妙に融けあった光景は、思わず息をのむほど美しかった。唐川の人々によって作り上げられた景観、それは島根の原風景の一つである。

（藤岡 大拙）



事業主体／唐川親交会（33名）

概要／明治12年頃より本格的にお茶を栽培、生産している。昭和54年に唐川親交会を結成し、「新茶まつり」、「番茶まつり」及び各種事業を通じて地域の景観保全推進活動を展開している。  
栽培面積：15ha

## 松江市島根町加賀の公共施設群 ～加賀の古民家をイメージした公共施設群の統一美～

松江市島根町加賀



**加**賀港から東へ少し進むと、加賀の古民家をイメージした中学校、給食センター、公民館・図書館の複合施設と小学校からなる公共施設群がある。

中学校、給食センター、公民館・図書館の3つの建物は、屋根に三色混ぜ葺きの赤瓦を使用し、建物側面のコンクリート壁には一部茶色の着色を施し、目地を入れることで木質感をだしており、背後の緑とよく調和している。これらの建物はそれぞれ屋根の高さを変えることにより、圧迫感を抑え、周囲の景観とよく馴染んでいる。

また、これらの建物は、凹字型に配置されており、各施設間の移動の利便性・安全性にも十分な配慮がなされている。中央広場は、中学生の語らいの場、市民と中学生の交流の場となっており、イベントの開催などもできるように工夫されている。

小学校は屋根が海の波か風をイメージした形状をしており、個性的な屋根であるが、背後の山々の稜線を侵さないよう高さが抑えられている。

少し離れたところから見ると、各建物の屋根面の高さが同じように見え、統一美を感じさせる。公共施設群全体の統一美とひとつひとつの建物の個性が互いに引き立っており、今後の公共施設群のあり方を示す好例であると言える。

(荒尾 慎司)



事業主体／松江市  
設 計／株式会社小草建築設計事務所(松江市島根公民館・松江市立島根図書館、松江市立島根中学校)  
株式会社三谷設計(松江市立島根小学校)  
施 工／カナツ技建工業株式会社(松江市島根公民館・松江市立島根図書館、松江市立島根中学校、松江市立島根小学校)  
カナツ・林谷特別共同企業体(松江市立島根中学校屋内運動場)  
幸陽・増原・林谷特別共同企業体(松江市立島根小学校屋内運動場)

(※概要については16頁に記載)

## 佐々木家住宅

～隠岐造り民家の特徴を今に伝える貴重な住宅～

隠岐郡隠岐の島町釜カス谷



**海**に近い静かな釜集落の中心に、佐々木家住宅がある。天保7年(1836年)に建てられたという。平成4年に国の重要文化財に指定され、その後、解体修理が行われた。

釜の集落に入り、この住宅に向かうと、その特徴的な屋根がまず目に入る。杉皮葺、石置の切妻屋根であり、800個もの石を使っているという。天然素材固有の色であるためだろうか、この屋根は大きいにもかかわらず周囲の自然と調和し、違和感がない。

佐々木家住宅は、隠岐造り民家の特徴を今に伝える、歴史的にも貴重な住宅である。周囲には都市の喧騒もなく、ただただ古き良き時代を思わせる穏やかな空気に満ちている。周囲のこの雰囲気も一緒に守り続けて欲しい。

この住宅で、地元の方々が、観光客などに対して地元の旬の食材を使った食事を提供しているという。景観、歴史、観光資源であるこの建物を、単に保存するのではなく活用している。この事実の積み重ねが、この資源を愛する地元住民の気持ちを、漠としたものから確たるものにし、この住宅を後世に大切に受け継いでいく力になるであろう。

(鳥屋 均)



事業主体 / 隠岐の島町  
 設計者 / 財団法人文化財建造物保存技術協会  
 施工者 / 株式会社奈良屋  
 概要 / 構造 木造  
           階数 地上1階  
           建築面積 245.7㎡  
           延床面積 245.7㎡  
           完成 平成17年3月

# 優秀賞

活動・工作物・その他部門

## すいとうろ 松江水燈路

～風情溢れる豊かな夜の景観をかもしだす～

松江市殿町・北堀町・黒田町



「松江水燈路」、この行事は9月から10月にかけて松江城周辺で行われるイベントで、今年で7回目を迎えた。期間中は様々なイベントが行われ観光客や市民で賑わうが、特に灯りを使って創り出される夜の景観は格別なものと言えそうだ。県庁前から塩見縄手、堀川遊覧船乗り場までの約1kmの歩道に市民手作りの行燈約四百個が並び、途中武家屋敷などの連続する昔ながらの漆喰塀の陰影ある柔らかなライティング、歩道にある木々や対岸の森のライトアップ等々、それらが堀川の水面にゆらゆらと映し出される情景は幻想的でさえある。この行事が定着してきたがゆえに、行燈に書かれている文言や絵をじっくり見る人が増えてきたのであろうか、風情にやや欠ける行燈も見受けられるという意見もあった。しかし、期間や時間などごく限られた中での演出された景観ではあるが、昼間見せている堀川や松並木、古い家並みの普段の顔とはまた違う、夜においてまさに風情溢れる豊かな景観が創り出されている事は評価に値する。

(小草 伸春)



事業主体／松江ライトアップキャラバン実行委員会  
設計者／有限社内原智史デザイン事務所（ライトアップ）  
施工者／有限社内原智史デザイン事務所（ライトアップ）  
概要／水と光が創り出す幻想的な景観を楽しんでもらうために平成15年より実施。  
・松江城及び塩見縄手周辺などの主要観光施設のライトアップ及び堀川遊覧船の夜間運行  
・堀川沿いに地域住民による手づくり行燈400個設置

## は す み 羽須美の棚田(上田・平佐) ～見る者の心をほっとさせる魅力の農村景観～

邑智郡邑南町上田・平佐



**中** 国山地の山懐に抱かれた、邑智郡邑南町羽須美の上田・平佐地区に広がる棚田である。山深い所であり、傾斜地での農作業の厳しさが思われるが、一方で、標高が高いことも関係しているのか、明るく開けた雰囲気がある。規模は比較的小さいものの、それだけに程よいまとまりを持ち、周囲に点在する赤瓦の家々とともに、この地ならではの印象深い山里の景色を見せている。棚田を支える石積みも、江戸時代から行われていた、砂鉄採取のための「鉄穴流し」の作業で出た石を使ったものであり、土地の歴史を感じさせる風合いがある。

この棚田の保全には、「上田・平佐棚田保存会」によって平成11年から展開されている「棚田オーナー事業」が大きな役割を果たしている。都市部からのオーナーを迎え、共同での農作業や収穫祭などが実施されており、交流を深めつつ美観を守る取り組みがなされている。寒暖の差が大きいこの地では良質の「棚田米」がとれ、「美味しい」というオーナーさんたちの声に、地元の人々も自信を深め、郷土への愛着を強めているという。

昔話の中で旅人を温かく迎える「かくれ里」のような、見る者の心をほっとさせる魅力を持った農村景観である。

(八田 典子)



事業主体 / 上田・平佐棚田保存会 (会員14戸)

概要 / 面積 約18ha (上田10ha、平佐8ha)

棚田を荒らさないこと及び都市と田舎の交流を図る目的で、平成11年度から棚田オーナー制度実施。会の活動が、地域の活性化につながるようと考え、農業活動の他、とんどや奉納神楽など地域の行事にも取り組んでいる。

## 玉湯川の桜並木

～艶めいた華やかさの桜花が豊かな満足感を誘う～

松江市玉湯町玉造・湯町



**玉**湯町の表玄関として四季を彩る桜並木は、玉湯川に沿って約2キロ、400本の桜が花やぐ様は美事の一言に尽きる。

国道9号からの眺めは花の精に吸い込まれるような、幻想的な美しい光景に対し、温泉街から宍道湖方面の景色は、遙か遠くに島根半島の淡い墨色の山並みがかすみ、優しい風情を作り出している。

護岸は流れに沿って自然に整備され、程よい川幅と水の音、吹き渡る風に錦鯉の群れなどそれらが心地よい。

日没、照明に浮き出された桜花は艶めいた華やかさで多くの人を包み込み、豊かな満足感を誘う。

この桜並木は、明治41年、鉄道の開通に伴い温泉街のシンボルとして100本の苗木が植えられ、大正後期には全国的に知られるようになった。

しかし、太平洋戦争中の燃料不足から、多くの桜が伐られ薪に変わってしまったと言う重苦しい悲史を秘めている。戦後になって改めて植栽され、今日的美観は嬉しいことである。

いくたの人々の守りに感謝し、エールを送りたい。

(平本 映子)



事業主体／社団法人松江観光協会玉造温泉支部

概要／明治45年の鉄道の開通に伴い、玉造温泉への観光客が次第に多くなり、温泉地としての風情を添えるため、桜の苗木を植え年々その数を増やし今日に至っている。

毎年桜の開花時期に併せて約3週間、桜並木のライトアップイベントを実施。

桜並木 延長：約2km、本数：約400本

# 奨励賞

土木施設部門

## こばらばし 小原橋

～機能に妥協することで新たな機能と景観を生み出す～

雲南市三刀屋町給下



**小**原橋は潜水橋である。洪水時には水面下に沈む潜水橋は、沈下橋とも、もぐり橋などとも呼ばれ、生活道路として、また、子供たちの遊び場や憩いの場として日本各地で親しまれている。

四国の四万十川に架かる沈下橋などが有名であるが、斐伊川の流域にも、この小原橋のほか、映画「うん、何？」の舞台の一つとなった「願い橋」（橋梁名：下熊谷橋）や、下流域にも数橋が現存している。

道路の機能としては大雨の時には通行出来なくなる不便な面がある一方、橋桁が薄く、欄干はなく、橋脚も短く、川幅に対して橋長が短いこのシンプルな姿は、川と一体となり、周辺の風景によくなじんでいる。

橋を渡ると、桁の高さが低いので、水面との距離が驚くほど近い。

水の流れ、川底の形状、小魚の躍動、あれ？ごみ？、大きな橋からはもちろんのこと、川岸からでも見ることの出来ない川の一面をここでは感じる事が出来る。身近な自然環境に触れるポイントの一つでもある。

「水没してもよい」、機能に妥協することで新たな機能と景観を生みだしているのだ。

（鳥屋 均）



事業主体／雲南市  
設計者／日発技研株式会社雲南営業所  
施工者／株式会社都間土建  
概要／橋梁延長 62.5m  
有効幅員 2.0m～3.0m（全幅員 2.35m～3.40m）  
橋梁形式 鉄筋コンクリート床版橋（RC床版橋）  
災害復旧完成 平成20年3月（当初完成 昭和34年）

## 観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI

～安来の玄関口としてユニークで十分に魅力的な景観を見せる～

安来市安来町



久しぶりに安来の駅前に降り立つ。以前は大きな工場群の重苦しい灰色の建物が迫って来てなんとさびしい風景であった。それがどうだ！その工場群をすっかりかくし落ち着いた、しかし華やぎのあるしっとりとしたベンガラ風の錆びたピンクの壁に、くすんだ色の木材を使い銀黒瓦との調和の美しいちょっと遊び心を含んだ古民家風の暖かさがある建物に変貌していた。そして木を多用した廻廊は建物に添ってめぐらせているのも決して邪魔にならず洒落た趣である。

「出会う、集う、憩う」を演出する安来市の観光と情報発信の拠点施設とあるが、見事にその役目を果たしていると感じる。正面の「安来駅」の看板のある丸みを持たせ張り出した大きなガラスの窓面からジャングルジムのような木組が中から透けて見える、それは思わず「？」と好奇心が湧き中へ誘い込むような効果がある。左右の異なった形の屋根と共に良いアクセントになっている。自転車置場受付の建物もベンガラ民家風なのがまた良い。観光、情報発信、駅舎を合築することでこの一郭から何か町が活気づく起爆剤となるのではと思われる。

ともかく安来の玄関口としてユニークで十分に魅力的な景観となっているのは間違いない。

(山谷 裕子)



事業主体／安来市  
 設計者／アトム設計共同企業体  
 施工者／大鉄工業株式会社米子支店  
 平井建設株式会社  
 概要／構造 木造  
 階数 地上2階  
 建築面積 739.12㎡  
 延床面積 771.74㎡  
 完成 平成20年3月

かみ むかえ

## 神迎の道の会の景観づくり活動

～おもてなしの心がさりげなく心温まる景観を創出する～

出雲市大社町杵築東地区（お宮通り・大鳥居・四つ角・中町・元町）



**古**い町は小路歩きが面白い。ましてや大社には、年に一度八百万の神々がお通りになる道がある。全国唯一のそれを町づくりに生かさない手はなかろう、と言うは易く行は難し。稲佐の浜に参集する神々を出雲大社へとお連れする通りに「神迎の道」と名づけ、商家、民家の軒下に山野草を飾りだしたのが5年前のことだ。活動を本格化しようと2006年4月には「神迎の道の会」を設立。現在、79世帯が参加し、軒下アートで道行く人々におもてなしの心を伝える。結果、さりげないけれど、心温まる景観を創り出した。

野花をいける竹筒は「潮汲」と呼ばれ、昔からの慣わしに由来するという。それは、稲佐の浜で禊ぎのための海水を汲むときに使うもの。実際、会では毎月1日早朝に潮汲体験ツアーを行っている。汲んだ潮は出雲大社や荒神社にて笹の葉でまき、残りは家で……と花器を話題に路上交流が盛り上がりもしよう。

神在祭や大型連休などには道沿いに花のオブジェが出現。荒神社の境内に廃油利用の手づくりローソクや灯籠を並べ、幻想的な夜を演出したりもする。会の代表が33歳の青年なのも頼もしいかぎり。大社歩きが楽しいことを、もっと気づかせてほしいと期待する。

（伊藤 ユキ子）



事業主体／神迎の道の会

概要／八百万の神々がお通りになられる道を「神迎の道」と名付け、伝統と文化あふれるこの地域を次世代へ誇りをもって伝えたいとの願いを旨に、平成16年に活動開始。

大社町の伝統風習で使われている「潮汲（しおくみ）」や山野草などを使ったオブジェ、エコろうそくなどで飾り付け「おもてなしの心」を表し、道行く人々の目を楽ませる景観づくり活動も行っている。

平成18年神迎の道の会発足 会員世帯数79世帯

# 特別賞

活動・工作物・その他部門

## 新しい<sup>こて</sup>鍍<sup>え</sup>絵の息吹 ～職人の心意気で蘇る鍍絵景観～

益田市喜阿弥町



**益** 田市喜阿弥町の農家は、緩やかな傾斜の田園風景の中に点在しており、主屋と納屋に土蔵がついていることが多い。

この辺りの土蔵は大正から昭和の初めにかけて、米一俵で職人を何ヶ月も雇えた時代に競うように建てたと聞いた。

多くの鍍絵がそうした時代に蔵飾りとして作られたようで、応募のあった鍍絵のある民家は高手にあって見晴らしがよく、鍍絵のある数軒の土蔵も遠望できる。

益田市の鍍絵は高津川と匹見川が落ち合う横田町などの周辺に多く見られ、伊藤初太郎や伊藤末治、久保田春吉といった明治、大正に活躍した左官の名を聞いた。彼らの弟子、孫弟子らによって市内には約70点の作品が残され、高い技術を誇った石見左官達であったが、後継者がおらず、技術が失われる危機に瀕していた。

しかし、この技術を、若者が一念発起して受け継ぎ、しかも鍍絵に挑戦している。この心意気を評価し、特別賞とした。

左官の塗り壁が居心地の良い建築空間をつくるということで見直されてきているときに、こうした試みは大いに歓迎すべき事であると思う。癒しの塗り壁に鍍絵、情熱的な赤瓦があいまって話題性のある家並みをもっと蘇るといい。

(渡部 孝幸)



事業主体／大賀 茂司  
施工者／岡崎 貢

概要  
土蔵改修工事 平成15年9月完成

修理内容：外壁4面塗り替え  
既存壁面に新たにモルタル壁を造り、漆喰調の吹き付け材で仕上げた。  
上り龍は、壁の完成に合わせて妻壁に取り付けた。龍の頭は作業場で造り、胴部分や他は現場で塗り上げ、4～5日で仕上げた。

主屋改修工事 平成17年4月完成

修理内容：外壁妻壁の塗り替え  
既存の土壁の上にモルタル壁を造り、漆喰調の吹き付け材で仕上げた。  
降り龍は、3ヶ月掛けて準備をし、壁が仕上がった時、一週間で取り付け、仕上げた。



## 第17回 しまね景観賞

### 大賞

- ① お茶の里「唐川」  
事業主体/唐川親交会

### 優秀賞

- 公共建築物部門  
② 松江市島根町加賀の公共施設群  
事業主体/松江市

- 公共建築物部門  
③ 佐々木家住宅  
事業主体/隠岐の島町

- 活動・工作物・その他部門  
④ 松江水燈路  
事業主体/松江ライトアップキャラバン実行委員会

### 奨励賞

- まち・みどり部門  
⑤ 羽須美の棚田（上田・平佐）  
事業主体/上田・平佐棚田保存会

- まち・みどり部門  
⑥ 玉湯川の桜並木  
事業主体/社団法人松江市観光協会玉湯支部

- 土木施設部門  
⑦ 小原橋  
事業主体/雲南市

- 公共建築物部門  
⑧ 観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI  
事業主体/安来市

- 活動・工作物・その他部門  
⑨ 神迎の道の会の景観づくり活動  
事業主体/神迎の道の会

### 特別賞

- 活動・工作物・その他部門  
⑩ 新しい鰻絵の息吹  
事業主体/大賀茂司

# 第17回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

## 審査委員

- 土木工学 **荒尾 慎司**  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
松江工業高等専門学校  
環境・建設工学科教授
- 作家 **伊藤ユキ子**  
紀行作家
- 建築業界 **小草 伸春**  
(株)小草建築設計事務所代表取締役
- 行政 **鳥屋 均**  
島根県土木部長
- 芸術学 **八田 典子**  
公立大学法人島根県立大学  
総合政策学部教授
- デザイン **平本 映子**  
松江生活デザイン研究所主宰
- 歴史学 **藤岡 大拙**  
島根県立大学短期大学部名誉教授
- 美術 **山谷 裕子**  
画家
- 建築学 **渡部 孝幸**  
大田市町並みアドバイザー

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

## 審査経過

- 募集期間  
～平成21年8月31日(月)
- 募集結果  
応募総数 173通  
応募物件 159件
- 第1次審査 (平成21年9月16日～9月30日)  
応募書類、写真をもとに第2次審査の対象となる24件を選定
- 第2次審査 (平成21年11月4日・5日)  
選出された24物件について現地審査及び最終審査会を行い、10物件を選定
- 表彰式 (平成22年1月28日)  
受賞物件の事業主体、設計者及び施工者に対して  
賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈

## 第17回 しまね景観賞第1次審査結果

部 門	名 称	所在地
ま ち ・ み ど り	お茶の里「唐川」	出雲市
	宍道湖グリーンパーク	出雲市
	荒神谷遺跡公園 古代ハス	斐川町
	羽須美の棚田(上田・平佐)	邑南町
	五左衛門の松並木	江津市
	上今明(かみいまあけ)の棚田	浜田市
	玉湯川の桜並木	松江市
土 木 施 設	萩津和野線(津和野町 本町・祇園丁通り)	津和野町
	川越大橋	江津市
	小原橋	雲南市
公 共 建 築 物	松江市島根町加賀の公共施設群	松江市
	しまね海洋館アクアス ペンギン館	浜田市
	佐々木家住宅	隠岐の島町
	観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI	安来市
民 間 建 築 物	宇賀の杜楽舎、宇賀の里楽舎	出雲市
	湯宿 草菴	斐川町
	チャレンジショップ ぢげもん	松江市
	福光海岸とラウ	大田市
活 動 ・ 工 作 物 ・ そ の 他	松江水燈路	松江市
	城東都市緑地(米子町公園)	松江市
	猪目町海岸	出雲市
	屋那の松原の植樹活動	隠岐の島町
	神迎の道の会の景観づくり活動	出雲市
	新しい饅絵の息吹	益田市

## 第17回 しまね景観賞

4頁：松江市島根町加賀の公共施設群の概要

### 松江市島根公民館・松江市立島根図書館

構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上1階  
建築面積：1,311.50㎡  
延べ面積：1,136.36㎡  
完成：平成20年3月

### 松江市立島根中学校

#### 【校舎棟】

構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上2階  
建築面積：2,265.62㎡  
延べ面積：3,644.95㎡  
完成：平成15年11月

#### 【食堂棟】

構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上1階  
建築面積：261.85㎡  
延べ面積：230.82㎡  
完成：平成15年12月

#### 【給食センター棟】

構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上1階  
建築面積：616.55㎡  
延べ面積：582.88㎡  
完成：平成15年12月

#### 【屋内運動場】

構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造  
階数：地上2階  
建築面積：1,623.12㎡  
延べ面積：1,972.70㎡  
完成：平成18年2月

### 松江市立島根小学校

#### 【校舎棟】

構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上3階  
建築面積：1,813.43㎡  
延べ面積：3,276.38㎡  
完成：平成17年3月

#### 【屋内運動場】

構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造  
階数：地上2階  
建築面積：1,088.20㎡  
延べ面積：1,217.31㎡  
完成：平成20年3月



平成22年1月

企画・編集／島根県土木部都市計画課